

## 2023年度 通常総会報告

開催日時：2023年6月17日(土) 14:00～15:30  
開催場所：東京都中央区日本橋2-2-5 富田ビル2階  
(ハイブリッド開催)

議長：渡邊久子 司会：大場 エミ  
学会会員総数：276名  
総会出席数：144名(内委任状出席数：131名)

### 第1号議案 2022年度事業報告

郡山事務局の菊池信太郎より、昨年度事業について報告。賛成が委任状と合わせ総会出席社員の半数を超えたため、可決となった。

### 第2号議案 2022年度事業報告(会計)

郡山事務局の菊池信太郎より、昨年度事業会計について報告。また、合わせて小笠原めぐみ監事より、昨年度監査結果について報告。賛成が委任状と合わせ総会出席社員の半数を超えたため、可決となった。

### 第3号議案 2023年度事業計画(案)

郡山事務局の菊池信太郎より、2023年度事業計画について説明。賛成が委任状と合わせ総会出席社員の半数を超えたため、可決となった。

### 第4号議案 2023年度事業予算(案)

郡山事務局の菊池信太郎より、2023年度事業予算(案)の説明。賛成が委任状と合わせ総会出席社員の半数を超えたため、可決となった。

### その他

#### 2023年度学術集会について

2023年度学術集会について、大会長を務める牧真吉より説明。

#### 世界乳幼児精神保健学会ダブリン大会について

ダブリン大会について、国際委員会香取奈穂より、日程・参加者について説明。

#### JAIMH理事講演会について

事務局長大場より、8月から行われる理事講演会について説明。

どうぞ奮ってご参加ください

## JAIMH理事によるZoom講演会を実施中です

**日時** 2023年8月6日～2024年2月4日までの毎週月曜日 11時～12時  
後日オンデマンドにて配信を予定しています。

**参加費** 会員 10,000円 非会員 20,000円 学生 5,000円 (全25回分)

### 申込み・内容

下記URLまたはQRコードから  
<https://japan-aimh.smartcore.jp/M021/forum/riji2023>



一般社団法人 日本乳幼児精神保健学会 事務局

〒963-8871 福島県郡山市本町 1-13-17 TEL 024-932-0154 FAX 024-932-0245  
E-mail [info@japan-aimh.com](mailto:info@japan-aimh.com) <https://japan-aimh.smartcore.jp/>

世界乳幼児精神保健学会 日本支部



### 会費のお振込みは下記の口座をお願いします

みずほ銀行(金融機関コード:0001) 新横浜支店(店番号:356)  
普通預金 3055110 一般社団法人日本乳幼児精神保健学会



# NEWS LETTER

世界乳幼児精神保健学会日本支部  
発行者 日本乳幼児精神保健学会 会長 渡邊久子

## 2023年度 一般社団法人 日本乳幼児精神保健学会 第3回学術集会に向けて



大会長 牧 真吉

今年度も昨年同様にハイブリッドでの開催といたします。出張してまでは参加が難しい方も自宅や施設から参加していただくことができます。特に団体で参加していただければ、1万円まで参加することができます。施設に集まって皆さんでオンラインを見ていただき意見を交わすことも可能になります。こんな利用の仕方もおすすめです。

さて今年度の内容です。チラシを見ていただくとわかりますように1日目は映画、講演としました。特に午前中は市民公開講座として養護施設を利用した子どもたちのその後を映画にしたものを鑑賞していただきます。午後は、柳田さん、いせさんの講演です。絵本と子どもとの関係のお話を伺います。天満さんが戻ってきて演奏していただける予定です。わたしも少し話させてもらいます。

今年の眼目は2日目です。事例検討を行います。このために守秘義務を課させていただきます。申し訳ございませんが、一般の方や学生にはご遠慮いただきます。実際の援助する現場でどのようなことが起きていくのか、どんなことに注意したら良いのかを事例を通じて皆さんと学べるようにします。事例としては、産後ケアの現場、乳児院での関わり、児童養護施設での関わり、震災後の関わりを取り上げます。しかもオンラインを介して、初めて行います。わたしたちの学びを進めるためにギリギリのところまで伝えていけるようにと考えていますが、合わせてプライバシーの問題もクリアできるように検討を進めています。現場の皆さんの参加ですので、事例について他言をされない配慮をしていただき、みのりのある大会としていきたいと思っております。

横浜の現地でもオンラインでも皆さんの参加をお待ちしております。

## 日本乳幼児精神保健学会 第3回学術集会

大会テーマ：乳幼児の心の育ちを乳幼児と家族の症例から学ぶ

**日時** 2023年12月2日～3日

**会場** 神奈川県県民共済みらいホール

**参加費** 会員 7,000円 非会員 8,000円 団体参加 10,000円(5名分)  
子育て中の養育者・学生 2,000円(症例検討参加不可)

**申込み** 2023年8月10日～11月10日  
<https://japan-aimh.smartcore.jp/M021/forum/forum2023>



## WAIMH 18th World Congress July 15-19, 2023

永寿総合病院 田中 祐子  
(JAIMH 国際委員会委員)

第18回WAIMH世界大会がアイルランド、ダブリンで5年ぶりに対面で開催されました。47か国から1500人の参加者で、アジアからの参加者が増加し、多様性の浸透が実感されました。日本から30名が参加し、シンポジウムも含めた口演17演題(うち会員10)及び、ポスター13演題(うち会員8)の発表がありました。

JAIMH国際委員会では、今回も大会参加ツアーをワイルド・ナビゲーションと企画しました。7人がこのツアーに参加し、ダブリン大会を楽しみました。会期前にメーリングリストで交流し、学会場での日本人参加者の集いをお声掛けしました。大会2日目に25人が親交を深めました。

WAIMHは発展途上国こそ乳幼児精神保健の普及が大切としてきました。発展途上国から世界大会に参加する方のための寄付を常時募っておりますが、本年はJAIMHとして初めて、寄付を会員へお声掛けしました。多くの方々のご賛同下さった結果、232,000円

(€1,475)の寄付が集まりました。この場を借りて改めて感謝し、報告致します。

ダブリンはアイルランドの首都で、空の広い広い町でした。千年のケルト文化に浸る充実した午後を過ごしました。その後のパブ巡りではケルト音楽とともに集い、語り続けるアイルランドの人々に交じりました。

次回はinterimWAIMH中間学会で2024年6月5~7日にフィンランド、タンペレにて行われます。また皆様と出会うこと楽しみにしています。



## WAIMH第18回大会参加報告

甲南大学 北川 恵

コロナ禍を経て数年ぶりに対面でのWAIMH大会がアイルランド・ダブリンで開催されました。報告者は2006年WAIMHパリ大会に初めて参加し、そこでアタッチメント理論に基づく親子関係支援 the Circle of Security program(COS)について知りました。それ以降、COSやその地域拡張版COSPを学び、実践、効果研究、日本への導入に取り組んできました。簡単な道のりではなく、各国のCOS仲間とWAIMHで励ましあい、日本でも仲間を増やして支えられてきました。

本大会では、ポスターとシンポジウムで発表しました。ポスターでは日本でのCOSPの効果について、オランダ・ライデン大学のJudi Mesman先生たちと感性性を評価し、検討した結果を発表しました。シンポジウムでは、COSの各国での文化や状況に応じた適用というテーマで、オーストラリア、ドイツ、日本からプレゼンをしました。報告者は日本でのCOSやCOSPの展開、成果、課題を発表し、温かい応援と今後につながる示唆をい

ただきました。JAIMHの先生方とも、毎回の大会で印象に残る交流をさせていただいており、本大会でも懐かしい再会、新たな出会い、発表からの学びなどがありました。渡邊久子先生とCongress Dinnerでお話させていただけたことも光栄でした。7月なのに学会中のダブリンはとても寒かったのですが、本当に温かい雰囲気にも包まれながら学び合い刺激し合えるWAIMHの魅力も改めて感じる機会でした。



## WAIMH2023 ダブリン大会に参加して

医療法人仁寿会 菊池医院 菊池 信太郎

世界各地で大きな災害や戦争が相次いで起きています。2011年に複合災害を受けた福島での経験や活動は、世界各地の復興のモデルとなり得えます。福島で活動する私たちには、その知見を広く世界に伝え、乳幼児に携わる人々へのヒントを与え続ける責務があるのかもしれない。

渡邊久子会長に機会を作っていただき、2016年のプラハ大会から震災後の福島について発表を行ってきました。今回は特にトルコ大地震やウクライナへの侵攻があり、復興へ向けて何をすべきかが問われている状況を考えました。行政や自治体よりも地域の大人たちが自ら子どもを守る活動を率先して始めたことをトピックに、私の屋内遊び場を作った活動、鈴木薫さんがいわき市でお母さんグループ自ら放射線測定を始めたこと、成井先生らが臨床心理士のグループで親子ミーティングを通してトラウマケアを行ったことをまとめて発表しました。

震災から既に12年が経過していますが、その間にもいろいろな社会問題が発生し風化と忘却が進行しています。忘れてはいけないことをいかに伝え続けるか、聴衆からもこうして発信を続ける重要性を改めて問われた次第です。

久しぶりの対面形式でしたので、参加者同士の活発な議論もみられました。乳幼児に関わる専門家はもっと現場に関わらなくてはいけないなど、当学会が抱えている課題が世界レベルで議論されていることが印象的でした。郡山を応援してくださいとの方々が、私たちに想い出を懐かしく語っていただけたことが何よりのお土産になりました。



## WAIMHダブリン大会 ~たらちねブースからの発信と報告

認定 NPO 法人いわき放射能市民測定室たらちね 矢吹 優美子

東日本大震災により起きた福島第一原発事故。国や地方行政が混乱し迅速に行動できない中、子どもを守りたい一心で母親たちが立ち上げた「たらちね」は、母親目線で運営し、さまざまな問題に取り組んできました。

ダブリン大会のブースでは、震災から12年が過ぎた子どもたちの心の様子を中心に発信しました。放射能汚染による見えない脅威と恐怖は母から乳幼児に伝わり緊張状態が続きました。12年経った今、乳幼児期の不安と緊張が疲労と怒りになり、家族に影響を落としていることなど、時間が経っても解決しない深い状況を伝えました。

ブースを訪れた人々は、「たらちね」が子どもたちに提供している遊び、ボディワーク、母親たちのナラティブ、沖縄やイタリアの転地保養から得られる自然環境の癒し効果に強い関心と反応を寄せました。被災地で被災者が活動する姿に共感し、地元の大学生からは



卒業後、ボランティアで「たらちね」を訪れたいとこの申し出もありました。

そして、もう一つの関心事は汚染水の海洋放出。海外の多くの方々が放射能による環境汚染に関心を持ち、たらちねによる海洋調査のデータを熱心に見ていました。今後起こりうる放出を見据え、地道に測定を続ける活動は素晴らしく、必ず必要とされていくデータであること、この大事な活動が市民の手によって運営されていることに、賞賛の言葉がありました。

原発事故を経験した我々だからこそ、伝えられたものがあつたと思います。